

連載⑤ 地域密着を進める
女子大学の人づくり
 宮城学院女子大学学長 平川 新

国内人口が縮小し、激化する国際競争の中で日本が生き延びていくためには、一人一人の価値生産力を上げることが必要だ。そのためには、これまで副次的に位置付けられることの多かった女性の力を最大限に発揮させる教育が求められる。宮城学院女子大学は16年4月に現代ビジネス学部を新設し、宮城と東北の

豊かな資源を活用して新たな価値を創造できる魅力ある人材を育成する。最大のポイントは、ビジネスに必要な幅広い知識と実践力をベースに、女性ならではの感性を生かした、地域発展へとつながる学びの提供である。東北の女子教育を担ってきた宮城学院が目指す、新しいステージだ。カリキュラムとしては、経営、マーケティング、会計、流通等に関する基礎的な知識のほかに、実践力養成プログラムが大きな特徴になっている。企業、NPOなどと連携したさまざまなプロジェクトを通して、企業人や社会人の発想力と実践力を学び、在学中から現実のビジネス世界にコミットする機会をカリキュラムとして組み込んだ。ビジネス現場の体験やフィールドワークなどを通じて専門分野への興味と関心を深めさせ、自らの職業選択に関する意識の涵養も図ることになる。

国内外への展開を図る現代ビジネスにとって、英語能力は必須となってきた。本学部ではビジネスにおける外国人との対応、商談や会議でよく用いられる基本的な英会話や文章の読解能力を育て、ビジネス場面で想定されるディベ

ートなどを通して、ビジネス英語による実践的なコミュニケーション能力を養うことにしている。ビジネスでは情報処理も重要だ。諸種のビジネス情報を収集・分析し、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力も身に付けさせなければならない。

専門応用科目では、時代のニーズに応える地域企業やベンチャー企業の経営戦略を学び、商品の企画・開発と広告や販売促進などのカリキュラ

ムを通して、企業と消費者との関係を習得する。コンプライアンス（法令遵守）のためには、経済活動に関する法規の理解も大切だ。財務会計では財務諸表を作成する力を養成し、製造業における原価計算や会計処理もカリキュラムに組み込んでいる。

こうした基盤となる科目のうえに、本学部では観光・国際・地域に関する展開科目を用意し、学生の関心に応じたビジネス分野の掘り下げを図

女性の視点で地域のビジネスを創造



現代ビジネス学部設立記念シンポジウムであいさつする宮原育子新学部長（15年10月）

る。「観光ビジネス」では、観光戦略や観光資源、観光産業に関する理解を深め、観光地域づくりについてのセンスを磨く。地域観光、国際観光、観光産業、旅行実務、観光英語などのメニューがある。「国際ビジネス」では、海外市場の開拓・拡大や海外交流の活性化を図る創造

的な能力と実践的なノウハウを習得するため、国際ビジネスのほか、海外市場や国際情勢、日中情勢などのカリキュラムを用意した。「地域ビジネス」では、地域の豊富な資源を活用した付加価値の高い新商品開発や新規販路開拓の取り組みなど、地域経済の活性化に貢献する発想力と実践力の錬磨を図る。科目としては地域産業、食品関連産業、ものづくり産業、地域振興などを開設する。

その一方で、同学部だけではなく大学として地元経済界や行政との結びつきを強めることが今後の課題になる。

現代ビジネス学部の初代学部長は宮原育子氏。宮城県や東北の観光学と地域交流分野の第一人者だ。穏やかで明るい性格とソフトなトークは、この学部のイメージを象徴する。女子大学で、女性だからこそできる新しい可能性が、現代ビジネス学部にはある。



平川新（ひらかわ・あらた）
 昭和25年生まれ。福岡県出身。昭和55年東北大学大学院修士課程修了。東北大学東アジア研究センター長、同災害科学国際研究所長を経て、平成26年4月現職に就任。